

第 148 回技術士包装物流会関西支部研究会議事録

令和元年 10 月 12 日
関西支部長 高垣俊壽
作 成 平田達也

開催日時：令和元年 10 月 9 日（水）

《研究会》18:00~19:20 《懇親会》19:30~20:30

開催場所：パナソニック松心会館

《研究会》2F 研修室 《懇親会》1F 大広間

出席者：合計 33 名

◆研究会

高垣支部長の挨拶から始まり、今後の予定報告、受験説明会の後、新研究会会員の木野元様が紹介された。

I 講演会：

演題：環境対応パッケージの実際について

講師：坂巻千尋様（凸版印刷㈱経営企画本部・部長 技術士）

1. 凸版印刷㈱の紹介

国内トップクラスの総合印刷会社で、事業概要をご説明頂いた。

2. 国内の動向

今年 6 月の G20 でプラスチック資源循環戦略を提示し、今後の日本の指針となる。

各自治体や企業もプラストロー対策や包装・容器のモノマテリアル化、バイオマス化、リサイクル化等の目標を立てて宣言する事例が増えている。

3. 国外の動向

- 1) EU で全ての素材を再利用・リサイクルすることを目指すサーキュラーエコノミー戦略（CE）が採択され、EU 経済政策として使い捨てプラスチック容器包装のリサイクルに注目している。
- 2) グローバルコミットメントをブランドオーナーに迫るエレンマッカーサー財団が世論、雰囲気を醸成している。
- 3) グローバル企業は EU プラスチック戦略に呼応して環境に対する取り組みと目標を表明している。欧州政府はマテリアルリサイクルを積極的に進めているが、大量消費の中国はこれから循環施策立案といったところである。

4. 2025 年に向けた宣言と課題

数多くのグローバルブランドオーナーが「By2025、100%リサイクルへ」宣言をしているが、環境負荷を小さくしたマルチマテリアル製品を多く使用しながらも 100%リサイクル宣言をしており、どのように落としどころを作るか課題が残る。

5. 海洋プラスチック問題

海洋に流れ出たマイクロプラスチックを海洋生物が摂食している現状に対し、先ず海洋に出さない対策を議論されている。国内では経団連が推進した産学官のアライアンス「クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス」が立ち上げられた。

6. 包装の対応

これまでの環境配慮型包装は容り法をベースに検討してきた。各種環境法令のご説明を頂き、従来からの凸版印刷㈱の取り組みとして「カート缶」、「コーヒーリフィル容器」、「非常用マグネシウム空気電池」等、興味深い事例を紹介された。

7. 国内外の動向を踏まえた、これからの環境対応包装

従来の対応に加え、素材のモノマテリアル化（リサイクルし易く）、生分解プラ（海洋プラ対策）等が進められているが、それぞれに課題と問題がある。

8. まとめ

環境対応包装のあるべき姿として、製品のライフサイクル全体を考慮した設計が重要で、凸版印刷㈱で取り組まれている、「サステナブルパッケージソリューション」を紹介された。

懇親会：同日 19：30～20：30 出席者 32 名 松心会館大広間

岡田支部相談役の乾杯の音頭で開催し、今田様の一本締めで閉会した。

◆第 149 回関西支部研究会は 12 月 10 日（火）に開催する

講師：野々山和行様 テーマ：「物流部門における品質管理の取り組み」



講師の坂巻様



新入会者の木野元様



受講風景



乾杯音頭の岡田様



交流会風景



締め今田様